

株主通信

平成29年11月

YBHD NEWS No.52



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード：5911



代表取締役社長
荒井 久司

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、株主通信「YBHD NEWS」第52号をお届けし、第154期上半期(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の事業の概況につきまして、別記のとおりご報告申し上げます。

我が国経済につきましては、企業業績の回復などを受け、雇用・所得環境に改善がみられましたが、個人消費が横ばいから本格的な回復に至る過程にあり、政府には経済の好循環と持続的成長を実現するための施策を実行することが期待されております。

建設業界につきましては、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた建設投資の高まりを受けて、都心を中心に再開発事業が活況を呈しており、こうした傾向は暫く続くものと考えられます。

当社グループの中核事業であります橋梁事業は、新設橋梁の発注量は横這いか、やや減少傾向にありますが、今年度上半期に国土交通省を中心に大型の新設橋梁が発注され、当社グループは保全工事を含め、順調に受注を積み重ねることができました。また、エンジニアリング関連事業においても、工場や倉庫を中心にシステム建築の旺盛な建設需要が続く、シールドトンネル用セグメントなどを加えたエンジニアリング関連事業の受注高は好調に推移いたしました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期累計期間における業績は売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれの数値も第2四半期累計期間として過去最高を更新することができました。

このような状況におきまして、通期連結業績予想や今後の設備投資の見直しなどを考慮いたしまして、期末配当予想を1株当たり9円から3円増配の12円とさせていただき、10月30日開催の取締役会で決議いたしました。これにより中間配当金1株当たり9円と合わせた年間配当金は1株当たり21円とさせていただきます。

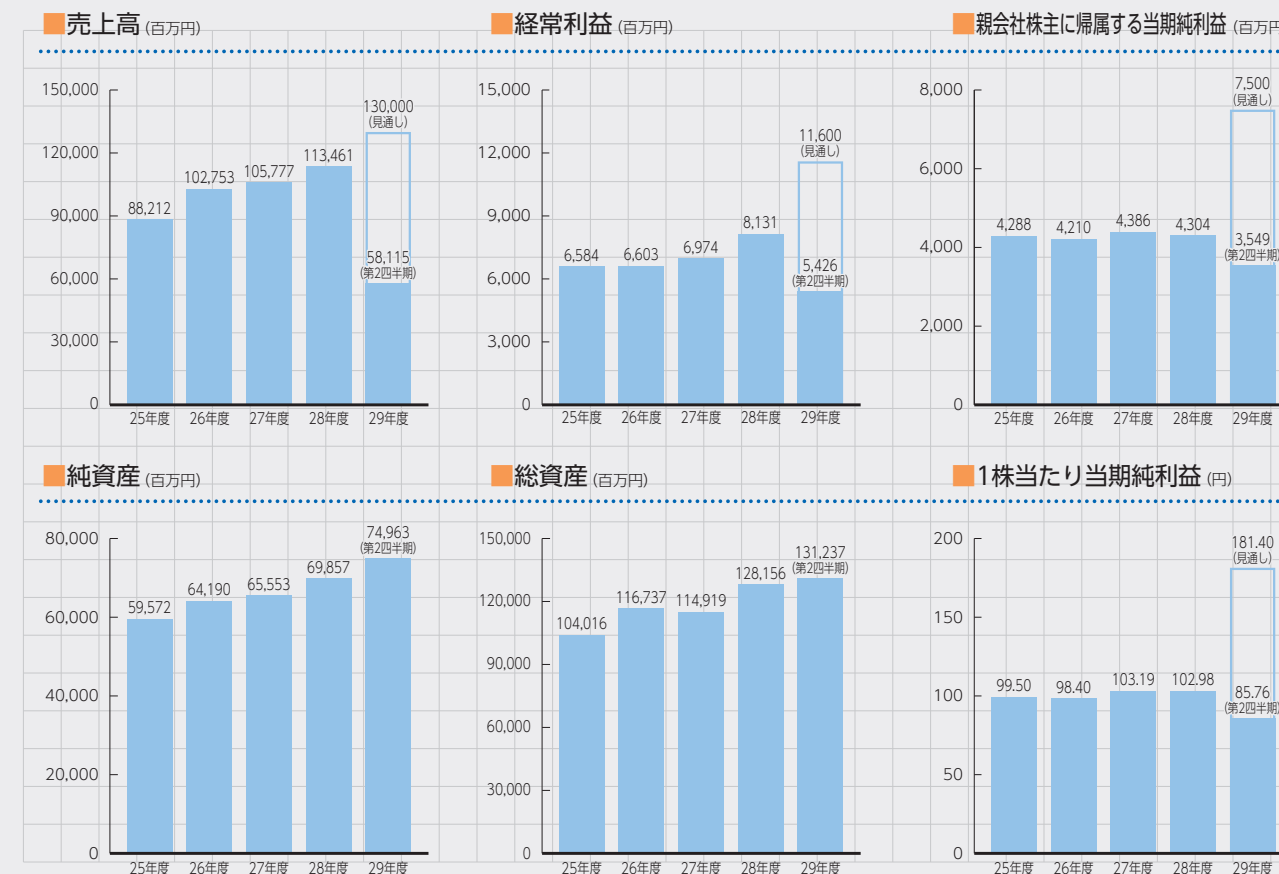
当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つと認識し、業績ならびに今後の事業展開に伴う資金需要などを総合的に勘案の上、安定した配当を継続してまいります。

また、事業拡大に合わせて工場や関連施設への投資を進めることで、効率的な生産体制を整えますとともに、執務環境の改善を図ってまいります。

当社グループを取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう、なお一層の努力をしておりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年11月

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 (第2四半期)
売上高 (百万円)	88,212	102,753	105,777	113,461	58,115
経常利益 (百万円)	6,584	6,603	6,974	8,131	5,426
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	4,288	4,210	4,386	4,304	3,549



当社グループの第2四半期

の業績につきましては、

受注高は787億7千万円
(前年同期420億7千万円)

売上高は581億1千万円
(同529億4千万円)

**親会社株主に帰属する
四半期純利益
35億4千万円**
(同4億6千万円の損失)

となりました。

各事業別の状況は
次のとおりです。

1 橋梁事業

受注高は463億8千万円(前年同期比117.9%増)となり北陸地方整備局・猪谷橋、中国地方整備局・倉敷立体高梁川大橋、鉄道・運輸機構・北陸新幹線幸町橋りょうなどを受注することができました。

売上高は316億3千万円(前年同期比5.1%増)と堅調に推移しました。損益につきましては、複数の大型工事での損益改善に加え、稼働率の安定が全体的な採算性の向上につながりましたため、営業利益は27億6千万円(同72.6%増)となりました。



2 エンジニアリング関連事業

受注高はシステム建築事業の旺盛な需要が継続いたしました。特に工場・倉庫を中心とする中規模以上の受注件数が増加したことが特徴であり、シールドトンネル用セグメントなどを加えたエンジニアリング関連事業の受注高は293億7千万円(前年同期比60.4%増)となりました。

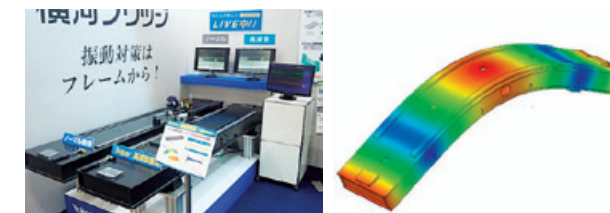
売上高は好調な受注状況によりシステム建築事業が業績を押し上げ、売上高は231億5千万円(同12.7%増)、営業利益は24億円(同27.3%増)となりました。



3 先端技術事業

受注高は精密機器製造事業の好調が続きましたため、受注高は30億1千万円(前年同期比21.9%増)となりました。

売上高は精密機器製造事業の伸長により、売上高は29億4千万円(同54.3%増)、営業利益は4億9千万円(同66.5%増)となりました。



4 不動産事業

不動産事業の売上高は3億8千万円(前年同期比2%減)となりました。

今後の見通し

平成29年5月15日に公表いたしました平成30年3月期の連結業績予想および期末配当予想を変更しております。

Topics 1

バリアフリー整備工事を実施しています
～JR御茶ノ水駅改良工事～

株式会社横河ブリッジより、JR御茶ノ水駅で行われている駅改良工事をご紹介します。

工事名称：御茶ノ水駅改良工事 人工地盤架設工
請負工期：平成29年3月13日～平成30年4月30日
事業者：東日本旅客鉄道(株)
元請者：鹿島建設(株)東京土木支店
当社受注範囲：鉄骨架設工事

現在のJR御茶ノ水駅は1932年に供用開始し、1日の乗車人員が約10万人です。当駅の課題としては、バリアフリー設備が未整備のほか、聖橋口改札には広場がないことでもあります。周辺環境は、東西を聖橋と御茶ノ水橋、南北を道路と神田川に挟まれた狭隘な位置に立地し、工事を実施

するうえで困難な位置関係にあります。前述の課題を解決すべく以下の駅改良工事を実施しています。

- ① 線路上空に人工地盤を設置し、エレベーター及びエスカレーターを配置することによるバリアフリールートの整備。
- ② 聖橋口駅舎の整備及び駅前広場機能整備。

そのうち、当社はクレーンによる線路上空部人工地盤鉄骨の架設工事を行っています。

施工は神田川上に設置されている仮設栈橋からクローラークレーン、またはトラベラークレーンにて鉄骨架設を行うもので、現在供用中のホーム部に柱を架設し、ホームの仮上家上に人工地盤となる桁を架設していきます。

鉄道工事のため、終電から初電までの短時間(実質約2時間)での作業となります。

現在施工中の第一期工事では、全幅約27mの人工地盤を、全長約120mのうち約80mを架設します。その後、第二期工事で残りの約40m(駅舎部含む)の架設を行う予定です。

多くのお客さまが利用される駅の改良工事の一部を施工させていただいており、工事の施工には慎重を期し、職員を始め協力会社の方々と一緒に引き続き安全作業に努めてまいります。

【撮影協力：東日本旅客鉄道(株)】



線路上空に人工地盤を構築

撮影：2017年9月



人工地盤上は駅コンコースとなる

撮影：2017年9月

Topics 2

(株)サイプレス・スナダヤ新築工事

株式会社横河システム建築より、(株)サイプレス・スナダヤ新築工事についてご紹介いたします。

今回、ご紹介する(株)サイプレス・スナダヤ新築工事は瀬戸内海に面した愛媛県西条市の東予インダストリアルパーク内に建設されました。

事業主の(株)サイプレス・スナダヤ様は、愛媛県産の木材を使用し、住宅の建築材料であるCLT材などの集成材(木質素材)を生産されています。本工事では、製材工場棟、集成材工場棟、製品倉庫棟、CLT工場棟の4棟全てにyess建築をご採用頂

きましたが、生産機械ラインの配置上、大空間が求められ、60mの無柱空間を実現できるyess建築の特性を存分に活かした建物となりました。なお、4棟のうちCLT工場棟はCLT材(直交集成板)を材料の原木から一貫生産する全国初の工場となります。

全4棟で合計約28,000㎡(MAZDA ZOOM-ZOOMスタジアム広島の1.2倍の面積)の大規模プロジェクトを、設計から竣工まで1年9ヵ月という短工期で実現し、平成29年9月に無事竣工を迎えました。

yess建築は鉄骨・屋根・外壁・建具等の部材を標準化することで高品質の建物を短工期・低コストで実現できる画期的な工法です。昨今は経済誌でも多く取り上げられるようになりましたが、今後ますます高まるyess建築への需要に対し、きめ細やかなサービスで対応してまいります。

工事名称：(株)サイプレス・スナダヤ
A棟、B棟、C棟、D棟新築工事
建築概要：建築面積 27,924㎡
A棟 製材工場棟、B棟 集成材工場棟、
C棟 製品倉庫棟、D棟 CLT工場棟
所在地：愛媛県西条市北条962-55



向かって右手前から時計回り
右手前：C棟 製品倉庫棟
左手前：A棟 製材工場棟
左 奥：D棟 CLT工場棟
右 奥：一番大きなB棟集成材工場棟
手前のヤードには加工する木材をストックしています



写真右：D棟 外壁に赤いラインの入ったCLT工場棟
写真左：B棟 集成材工場棟

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成29年9月30日現在	前 期 末 平成29年3月31日現在
資産の部		
流動資産	85,007	87,740
現金預金	21,305	16,477
受取手形・完成工事未収入金等	57,022	64,772
有価証券	653	664
たな卸資産	1,018	1,001
その他	5,008	4,830
貸倒引当金	△ 0	△ 6
固定資産	46,230	40,415
有形固定資産	22,552	19,380
土地	11,510	9,531
その他(純額)	11,041	9,849
無形固定資産	982	993
投資その他の資産	22,694	20,042
投資有価証券	19,487	16,807
その他	3,207	3,234
資産合計	131,237	128,156

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成29年9月30日現在	前 期 末 平成29年3月31日現在
負債の部		
流動負債	33,991	37,199
支払手形・工事未払金等	16,449	17,062
短期借入金	—	4,800
1年内償還予定の社債	100	100
1年内返済予定の長期借入金	532	532
未払法人税等	1,924	1,767
未成工事受入金	4,267	2,699
工事損失引当金	4,206	4,395
賞与引当金	2,077	2,056
事故関連損失引当金	1,177	1,650
その他の引当金	67	67
その他	3,190	2,067
固定負債	22,282	21,099
社債	2,400	2,450
長期借入金	6,216	6,136
役員退職慰労引当金	769	716
退職給付に係る負債	9,490	9,197
その他	3,406	2,598
負債合計	56,274	58,298
純資産の部		
株主資本	65,892	62,870
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,089	10,089
利益剰余金	50,077	46,858
自己株式	△ 3,709	△ 3,513
その他の包括利益累計額	7,390	5,443
その他有価証券評価差額金	7,231	5,367
土地再評価差額金	159	159
退職給付に係る調整累計額	—	△ 84
非支配株主持分	1,680	1,544
純資産合計	74,963	69,857
負債純資産合計	131,237	128,156

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成29年4月 1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成28年4月 1日から 平成28年9月30日まで
売上高	58,115	52,949
売上原価	48,835	45,595
売上総利益	9,279	7,354
販売費及び一般管理費	3,949	3,928
営業利益	5,330	3,425
営業外収益	295	254
営業外費用	199	133
経常利益	5,426	3,546
特別利益	0	0
特別損失	75	3,870
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	5,351	△ 324
法人税等	1,663	△ 99
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	3,687	△ 225
非支配株主に帰属する四半期純利益	138	239
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	3,549	△ 464

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成29年4月 1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成28年4月 1日から 平成28年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	14,462	△ 3,226
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 4,336	△ 2,549
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 5,298	△ 354
現金及び現金同等物に係る 換算差額	0	△ 22
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	4,827	△ 6,153
現金及び現金同等物の 期首残高	16,447	18,515
現金及び現金同等物の 四半期末残高	21,275	12,362

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

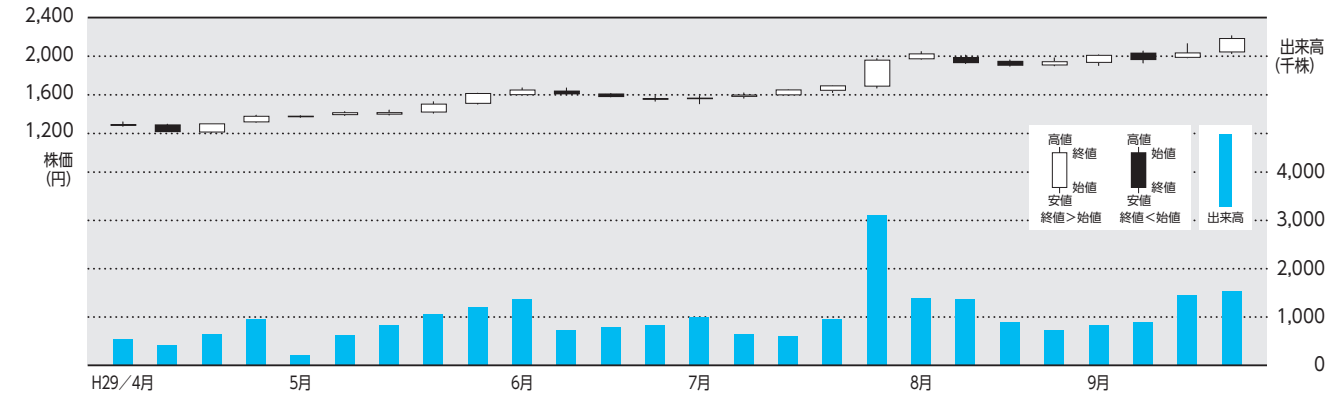
発行可能株式総数..... 180,000,000株
発行済株式総数..... 45,564,802株
株主数..... 4,763名

大株主 (上位10名)

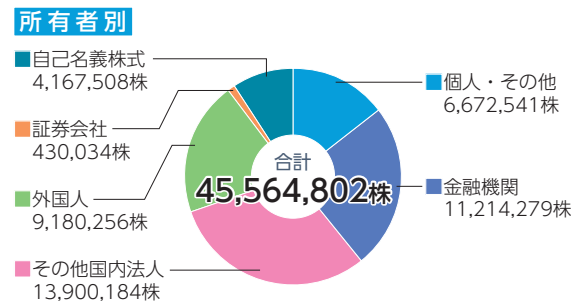
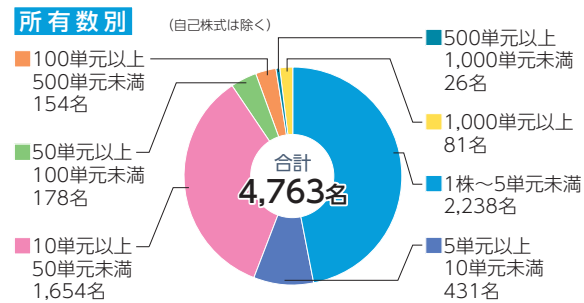
株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
横河電機(株)	2,234,991	5.39
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	2,159,900	5.21
新日鐵住金(株)	1,987,303	4.80
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,714,000	4.14
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	1,467,200	3.54
(株)みずほ銀行	890,612	2.15
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	774,600	1.87
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	694,400	1.67
住友不動産(株)	674,000	1.62
東プレ(株)	616,000	1.48

(注) 1. 当社は、自己株式を4,167,508株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移



株式分布状況



会社概要

社名 株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL:03-3453-4111(代表)
資本金 9,435百万円
主な機能 経営戦略、法務・監査、経理・財務
総務・人事、IR・広報、技術研究開発

YBHDグループ

- 株式会社 横河ブリッジホールディングス**
グループ全体の経営管理
- 株式会社 横河ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造
- 株式会社 横河システム建築**
システム建築・開閉式建築システム・環境
- 株式会社 横河住金ブリッジ**
橋梁・橋梁関連製品・セグメント
- 株式会社 榑崎製作所**
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品
- 株式会社 横河技術情報**
情報処理サービス・ソフトウェア開発
- 株式会社 横河ニューライフ**
不動産管理・情報システム・人材派遣
- 株式会社 ワイ・シー・イー**
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

役員一覧 (平成29年10月1日現在)

代表取締役会長 吉田 明
代表取締役社長 藤井 久司
取締役 高木 清次
取締役 宮本 英典
取締役 名取 暢
取締役 大島 輝彦
取締役 小林 明
取締役 高田 和彦
取締役 北田 幹直 (社外取締役)
取締役 亀井 泰憲 (社外取締役)
常勤監査役 北爪 恒平
常勤監査役 荒渡 薫
監査役 志々目 昌史 (社外監査役)
監査役 八木 和則 (社外監査役)
監査役 西山 重良 (社外監査役)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

表紙の写真:常葉川橋(ときわがわばし)

所在地:山梨県南巨摩郡身延町波高島地先
構造形式:本線橋(連続箱桁3連、連続鈹桁1連)他
鋼重:2,960t(当社施工分)



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

